

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 九州財務局長

【提出日】 平成26年2月14日

【四半期会計期間】 第35期第3四半期(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)

【会社名】 株式会社ヒガシマル

【英訳名】 HIGASHIMARU CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 東 紘一郎

【本店の所在の場所】 鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉20番地

【電話番号】 099-273-3859 (代表)

【事務連絡者氏名】 管理部長 木通 昌生

【最寄りの連絡場所】 鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉20番地

【電話番号】 099-273-3859 (代表)

【事務連絡者氏名】 管理部長 木通 昌生

【縦覧に供する場所】 証券会員制法人福岡証券取引所

(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第34期 第3四半期 連結累計期間	第35期 第3四半期 連結累計期間	第34期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (千円)	6,642,850	8,042,217	8,211,025
経常利益 (千円)	404,960	532,243	269,197
四半期(当期)純利益 (千円)	327,453	447,808	265,686
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	474,514	462,860	493,142
純資産額 (千円)	4,910,660	5,354,507	4,929,288
総資産額 (千円)	11,586,205	12,093,140	10,606,682
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	69.59	95.17	56.47
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	42.4	44.3	46.5

回次	第34期 第3四半期 連結会計期間	第35期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	43.09	38.52

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、各セグメントに係る主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(食品事業)

当社が全株式を取得した株式会社向井珍味堂が連結子会社となりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策・金融政策等の効果や期待感を背景に、円安により輸出は回復基調で推移し、株価の上昇が資産効果を通じて個人消費を押し上げるなど、全体的に景気回復の兆しが見られました。しかしながら、円安や原油高に伴う輸入原材料の高騰、海外経済の停滞や新興国の緩慢な動きに伴い景気下振れリスクも存在しており、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く環境におきましても、主原料（魚粉・小麦粉）の高騰、燃料及び石油関連資材などの値上がりの影響を受けており、また、消費者の節約・低価格志向が根強いことから、価格競争が続く厳しい状況で推移いたしました。

このような経営環境の下、当社グループは市場動向を見極めながら積極的な販売活動を展開するとともに収益力の向上に努めてまいりました。一方、事業領域の拡充及び販路拡大など攻めの販売体制を強力に推し進めるなか、平成25年7月31日に株式会社向井珍味堂を子会社化（100%子会社）いたしました。

なお、株式会社向井珍味堂につきましては、第2四半期連結会計期間末（平成25年9月30日）を支配獲得日とみなして処理していることに伴い、同社の業績は、当第3四半期連結会計期間から連結業績に含まれております。

その結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は80億42百万円と前年同四半期と比べ13億99百万円（21.1%）の増収、営業利益は4億92百万円と前年同四半期と比べ1億29百万円（35.6%）の増益、経常利益は5億32百万円と前年同四半期と比べ1億27百万円（31.4%）の増益、四半期純利益は特別利益に負ののれん発生益が92百万円計上されましたが、法人税等が99百万円増加したことから4億47百万円と前年同四半期と比べ1億20百万円（36.8%）の増益となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

水産事業

水産事業におきましては、養魚用配合飼料の主原料（魚粉）の価格が高値圏で推移していることや、魚価相場も低調で厳しい環境が続いております。

このような状況のなか、エビ飼料類は既存顧客のシェアアップが図られたほか、マダイ飼料類は値上げ前の積極的な前倒し受注から売上高は増加しました。ハマチ飼料類は、養殖在池尾数の減少や鮮魚相場低迷の影響から他社との価格競争等もあって売上高は減少しました。

その結果、売上高は56億12百万円と前年同四半期と比べ5億4百万円（9.9%）の増収となりました。セグメント利益は4億52百万円と前年同四半期と比べ43百万円（10.6%）の増益となりました。

食品事業

食品事業におきましては、日常食料品の節約・低価格志向が継続しておりますが、一方では景気の上向きにあわせ、高付加価値商品の売上が伸びている状況でもあります。

このような状況のなか、即席めん類は、価格競争や大手メーカーの新商品等の販売攻勢を受けるなどし、売上高は大きく減少しましたが、皿うどん類の増量タイプの商品が好調に推移いたしました。

また、子会社においては、コスモ食品株式会社のカレールー、ドレッシング及びジャム等の販売は順調に推移しました。そのほか、株式会社向井珍味堂が当第3四半期連結会計期間から業績に含まれております。

その結果、売上高は24億29百万円と前年同四半期と比べ8億94百万円（58.3%）の増収となりました。セグメント利益は2億52百万円と前年同四半期と比べ1億9百万円（75.8%）の増益となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ14億86百万円増加し、120億93百万円となりました。これは、主として受取手形及び売掛金が9億13百万円、現金及び預金が5億96百万円増加したことなどによるものであります。

負債は、前連結会計年度末と比べ10億61百万円増加し、67億38百万円となりました。これは、主として長期借入金が5億65百万円、買掛金が2億73百万円、未払法人税等が1億95百万円増加したことなどによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比べ4億25百万円増加し、53億54百万円となりました。これは、主として利益剰余金が4億10百万円増加したことなどによるものであります。

なお、自己資本比率は前連結会計年度末と比べ2.2ポイント減少し、44.3%となりました。第2・第3四半期連結会計期間は、特に水産事業において販売及び仕入が多くなるという季節的変動により、売上債権及びたな卸資産等の流動資産並びに仕入債務がいずれも増加することから、自己資本比率は低下する傾向にあります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

昨年6月27日提出の有価証券報告書に記載のとおり、先行き不透明な経済環境や企業間競争が続く厳しい経営環境のなか、当社グループ一丸となって、「企業収益力の向上」、「生産力・販売力の強化」、「マネジメントの改革」を推し進め、競争できる経営体質を目指してまいります。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間のグループ全体の研究開発費の総額は1億34百万円であります。

(5) 従業員数

連結会社の状況

当第3四半期連結累計期間において、食品事業の従業員数が40名増加しております。これは、主として株式会社向井珍味堂の子会社化によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の従業員数は、次のとおりであります。

セグメントの名称	従業員数(名)
水産事業	113
食品事業	167
全社(共通)	14
合計	294

- (注) 1 従業員数は就業人員数であります。
2 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(6) 生産、受注及び販売の実績

生産実績

当第3四半期連結累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(千円)	前年同四半期比(%)
水産事業	4,562,503	+ 8.2
食品事業	1,505,517	+ 45.1
合計	6,068,020	+ 15.5

- (注) 1 金額は、製造原価によっており、セグメント間の取引がある場合は相殺消去後の金額としております。
2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

受注実績

当第3四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高 (千円)	前年同 四半期比(%)	受注残高 (千円)	前年同 四半期比(%)
水産事業	1,301,622	+ 55.8	6,628	+ 615.3
食品事業	129,658	24.6	151	87.7
合計	1,431,281	+ 42.1	6,780	+ 213.3

- (注) 1 金額は、販売価額によっております。
2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

販売実績

当第3四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(千円)	前年同四半期比(%)
水産事業	5,612,839	+ 9.9
食品事業	2,429,377	+ 58.3
合計	8,042,217	+ 21.1

(注) 1 セグメント間の取引がある場合は相殺消去後の金額としております。

2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前第3四半期連結累計期間		当第3四半期連結累計期間	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
株式会社ヨンキュウ	1,348,424	20.3	1,130,546	14.1
協同飼料株式会社	614,363	9.2	1,060,833	13.2

3 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

() 当第3四半期連結累計期間は、「第4 経理の状況」において四半期連結キャッシュ・フロー計算書を掲げていないため、キャッシュ・フローの状況に関する分析・検討内容は記載しておりません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,900,000
計	17,900,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,746,000	4,746,000	福岡証券取引所	単元株式数は 100株であります。
計	4,746,000	4,746,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日		4,746		603,900		393,400

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 40,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,705,000	47,050	
単元未満株式	普通株式 200		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	4,746,000		
総株主の議決権		47,050	

(注)「単元未満株式」欄の株式数には、当社所有の自己株式89株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ヒガシマル	鹿児島県日置市伊集院町 猪鹿倉20番地	40,800		40,800	0.85
計		40,800		40,800	0.85

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,580,048	2,176,579
受取手形及び売掛金	1,582,051	2,495,519
有価証券	75,269	84,406
商品及び製品	437,087	468,899
仕掛品	112,515	99,515
原材料及び貯蔵品	963,819	1,138,097
その他	522,909	183,688
貸倒引当金	16,276	12,710
流動資産合計	5,257,424	6,633,996
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,232,938	1,195,028
機械装置及び運搬具(純額)	639,903	687,727
土地	1,968,436	2,089,004
その他(純額)	96,079	43,802
有形固定資産合計	3,937,356	4,015,563
無形固定資産		
のれん	457,467	421,352
その他	34,355	30,426
無形固定資産合計	491,823	451,778
投資その他の資産		
投資その他の資産	962,642	1,056,402
貸倒引当金	42,563	64,600
投資その他の資産合計	920,078	991,801
固定資産合計	5,349,258	5,459,143
資産合計	10,606,682	12,093,140

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	534,018	807,971
短期借入金	2,343,050	2,358,704
未払法人税等	9,436	204,877
賞与引当金	113,378	52,187
その他	302,006	340,224
流動負債合計	3,301,890	3,763,965
固定負債		
長期借入金	1,755,500	2,320,911
退職給付引当金	43,195	72,215
役員退職慰労引当金	383,494	393,159
その他	193,313	188,382
固定負債合計	2,375,503	2,974,667
負債合計	5,677,394	6,738,632
純資産の部		
株主資本		
資本金	603,900	603,900
資本剰余金	458,400	458,400
利益剰余金	3,807,701	4,217,869
自己株式	28,968	28,968
株主資本合計	4,841,032	5,251,200
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	41,937	54,598
繰延ヘッジ損益	46,318	48,709
その他の包括利益累計額合計	88,255	103,307
純資産合計	4,929,288	5,354,507
負債純資産合計	10,606,682	12,093,140

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	6,642,850	8,042,217
売上原価	5,297,065	6,274,540
売上総利益	1,345,784	1,767,677
販売費及び一般管理費		
運賃諸掛	300,487	316,297
貸倒引当金繰入額	-	31,999
給料及び賞与	253,474	344,970
賞与引当金繰入額	16,670	15,202
役員退職慰労引当金繰入額	7,173	10,669
その他	405,129	556,504
販売費及び一般管理費合計	982,933	1,275,644
営業利益	362,851	492,032
営業外収益		
受取利息	244	259
受取配当金	3,232	4,115
為替差益	2,844	23,753
受取保険金	35,377	6,963
雑収入	35,127	29,829
営業外収益合計	76,826	64,921
営業外費用		
支払利息	21,223	23,784
雑損失	13,492	927
営業外費用合計	34,716	24,711
経常利益	404,960	532,243
特別利益		
負ののれん発生益	-	92,765
特別利益合計	-	92,765
税金等調整前四半期純利益	404,960	625,009
法人税、住民税及び事業税	22,480	139,120
法人税等調整額	55,027	38,080
法人税等合計	77,507	177,200
少数株主損益調整前四半期純利益	327,453	447,808
四半期純利益	327,453	447,808

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	327,453	447,808
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,550	12,660
繰延ヘッジ損益	145,891	2,391
為替換算調整勘定	7,720	-
その他の包括利益合計	147,061	15,051
四半期包括利益	474,514	462,860
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	474,514	462,860
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	
連結の範囲の重要な変更	
前連結会計年度において連結子会社でありましたHIGASHIMARU VIETNAM CO.,LTDIは、平成25年3月に清算したため、連結の範囲から除外しております。	
第2四半期連結会計期間から、株式会社向井珍味堂の株式取得により、同社を連結の範囲に含めております。なお、みなし取得日を第2四半期連結会計期間末としているため、当第3四半期連結会計期間から損益計算書も連結しております。	

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日(期末日)満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日(前連結会計年度の末日)が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日(期末日)満期手形が、四半期連結会計期間末(期末)残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
受取手形	173,876千円	169,940千円

(四半期連結損益計算書関係)

売上高及び売上原価の季節的変動

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

養魚用配合飼料の需要は、養殖魚の成長過程に応じ、摂餌が旺盛になる夏から初冬までが多く、水温が低下し餌食いが鈍くなる冬から春は少なくなるという季節の変動があります。

したがって、第2四半期連結累計期間及び第3四半期連結累計期間において売上高及び売上原価が大きく増加する傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
減価償却費	217,824千円	220,590千円
のれんの償却額	12,038	36,115

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	37,641	8	平成24年3月31日	平成24年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	37,640	8	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	水産事業	食品事業			
売上高					
外部顧客への売上高	5,108,386	1,534,464	6,642,850		6,642,850
セグメント利益	408,947	143,885	552,832	147,872	404,960

(注)1 セグメント利益の調整額 147,872千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費160,575千円、営業外収益32,236千円、営業外費用19,533千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第2四半期連結会計期間にコスモ食品株式会社を連結子会社としたことを主因として、前連結会計年度の末日と比べて当第3四半期連結会計期間末の「食品事業」セグメントの資産の金額が1,819,369千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	水産事業	食品事業			
売上高					
外部顧客への売上高	5,612,839	2,429,377	8,042,217		8,042,217
セグメント利益	452,129	252,916	705,046	172,803	532,243

(注) 1 セグメント利益の調整額 172,803千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費179,678千円、営業外収益21,141千円、営業外費用14,266千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第2四半期連結会計期間に株式会社向井珍味堂を連結子会社としたことを主因として、前連結会計年度の末日と比べて当第3四半期連結会計期間末の「食品事業」セグメントの資産の金額が912,434千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益	69円59銭	95円17銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	327,453	447,808
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益(千円)	327,453	447,808
普通株式の期中平均株式数(千株)	4,705	4,705

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月14日

株式会社ヒガシマル
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 川 畑 秀 二 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 只 隈 洋 一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ヒガシマルの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ヒガシマル及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。